

平成28年度全日制重点目標及び評価結果と課題

本年度の重点目標		進路を意識した学習習慣の徹底を図る。	
担当	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
総務部	P T A 活動の活性化・充実	P T A 役員との連携を密にし、より多くの P T A 一般会員の参加を呼びかける。	一日研修や半日研修などでは一般会員の参加がやや少なかった。きずなネットやホームページを通じて、さらに多くの保護者が参加できるよう呼びかけを継続させていきたい。
	魅力ある学校としての広報活動の強化	地域や中学校への広報活動により効果的に行う。	ホームページではトップページに重要な情報を見やすく配置し改善を図った。碧高ニュース、学校紹介リーフレットなども含めてより効果的な情報発信を継続させていきたい。
教務部	考査や進路を意識して、計画的に学習する姿勢を育てる。	学習計画表や考査の目標・反省を書かせ、個人面接によって指導することで、計画性を育てる。	昨年度と同様に、この取組が個人面接に活かされ、生徒の計画性向上に役立った。今後も同じ取り組みを継続させていく。
	教科として生徒を伸ばす面を共通理解し、組織的に指導する。	教科が共通して生徒に力を付けさせる点を議論することで、教科会の充実、目標設定の共有化を図る。	教育課程改善の検討などを機に、教科会での議論が活発となり、教科としての指導の在り方が話し合われた。今後も、教科会での話し合いを充実させる工夫を続けていきたい。
生徒指導部	基本的な生活習慣の確立	遅刻の撲滅を目指し、朝の声かけや、遅刻の事後指導を徹底する。	正門指導を継続的に実施し、遅刻を減らすことができた。来年度も同様に指導を継続していく。
	規範意識の高揚	自己と他者のための端正な身だしなみを、普段からの声かけで意識させる。	身だしなみについて、おおむね落ち着いており、男子は良好。後期にかけてスカートを短くする等散見される。生徒が自律的に身だしなみを整えるよう声かけを継続していく。
	自己肯定感や自己有用感、コミュニケーション能力の育成	自分から挨拶をするように声をかけ、ボランティア活動などの取組を実施する。道徳教育的実践力を高める取組を推進する。	特に、校内ですれ違う際など自分から率先し挨拶できる生徒はあまり多くない。指導部内で再検討し取組を実践していく。
生徒会	生徒会行事の充実	学校祭や球技大会、予餞会などの学校行事をとおして生徒が人間的に成長できるようにする。	リーダーを育て生徒の主体性を最大限に活用することに重点をおいて、行事を行った。来年度に向けては、経費の削減を図っていきたい。
	部活動の充実	部員集会や受納式、全校集会などを通して部活動の重要性を生徒に認識させる。	部員集会を開催し健康安全な部活動や部内の人間関係の構築の大切さを発信した。来年度も引き続き活力ある部活動の在り方を発信すると共に大会、コンクール等で活躍できる部活動を支援していく。
	ボランティア活動の充実	ハンギングバスケット、赤い羽根募金、あいさつ運動などを通してボランティア活動の重要性を生徒に認識させる。	募金活動等では、本校生徒の協力姿勢が高い。来年度は、他の分掌と協力して生徒が様々なボランティア活動に取り組んで行くことができる仕組みを作っていく。

担当	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
進路指導部	キャリア教育の推進	総合学習、各種ガイダンス、面接・小論文指導を体系づけ、一貫性のある進路指導体制をつくる。	総合学習、ガイダンス、面接・小論文指導など、それぞれの活動においてはきちんと指導がなされた。各学年の状況を俯瞰する機会があればなおよいと思われる。
	生徒の進路意識と教員の進路指導意識の高揚	個別面接指導と進路ガイダンスを中心に指導を進める。	ガイダンスの事前事後の指導を通じて生徒の進路意識を育むことができた。教員の意識高揚に関しては、各学年のガイダンスに積極的に関わっていただいたことや進路検討会に学年枠を越えて参加していただいたことで、ある程度進んだものと考えられる。1、2学年の進路ガイダンスについては内容や講師を毎年精選し、キャリア教育の推進につながるものを選ぶ必要がある。
	進路情報の共有化と有効活用	進路指導に有効な資料の検討及びその作成を行う。	進路指導部に送付された資料を掲示したり、クラスに配布するなど適切に行った。進路関係業者から送付される資料の量が膨大で精選に時間がかかり、スピーディに配布等が行えなかったことが課題である。
保健厚生部	健康意識の向上	定期健康診断後の事前事後の指導をきめ細かく行う。健康に関する情報を発信する。	自己の健康に興味・関心を持ち、自己管理できるよう、集団指導や個別指導を行った。定期的に保健だよりの発行や掲示物の作成を行い、健康を保持増進できるよう情報を発信した。来年度も引き続き、事前事後の指導をきめ細かく行い、情報を発信していきたい。
	特別支援教育の充実	情報交換を密にし、支援の必要な生徒へ、早期に対応する。必要な生徒へのSC面談や個に応じた支援を行う。	支援の必要な生徒については、関係職員やスクールカウンセラーと連携して対応した。特別支援教育委員会で情報を共有し、支援を検討した。来年度はさらに充実した支援体制を整えていきたい。
	環境美化の推進	全員清掃を確実に実施させる。ゴミの分別を徹底する。	全員清掃やゴミの分別を徹底するように回収場や巡回指導で呼びかけた。来年度も引き続き呼びかけや意識の向上に努めたい。
研修部	図書館力の向上	古い図書の破棄と新規の図書の充実を図り、生徒が図書館に足を運びやすくするため、生徒の興味のある企画展示を実施する。	古い図書を廃棄し、生徒が希望している新着図書を充実することができたが、なかなか来館数にはつながらなかった。来年度はさらに多くの生徒が興味を持てる企画を立案し実施していきたい。

担当	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
研修部	国際理解の向上	留学生の受入れ、送出しと交流会の充実を図り、より多くの生徒が留学に対して興味を持つよう広報活動（国際だより）を積極的に発行する。	生徒へ海外派遣の情報を発信したり、留学生との交流の場を増やすことで、多くの生徒に海外派遣に興味を持たせることができた。さらに広報活動を充実させて、より生徒が世界に目を向けられるようにしていきたい。
	校内研修活動の充実	教員が校内研修活動に参加することにより、教育力が向上するように、積極的に取り組む。	多くの教員がスキルアップできるような校内研修を企画することができなかった。来年度は教育力が向上できるような内容の研修を企画し、実施していった。
商業科	地域連携教育の推進	課題研究の各講座を中心に外部団体との連携を充実させる。碧南Kプロジェクトの継続と中学校への出前授業に力を入れる。	碧南Kプロジェクトを昨年度以上に盛況に終えることができた。てらまちウォーキングのボランティアなど新規の取組があった。出前授業を碧南市内のすべての中学校で実施することができた。次年度は各取組の内容を充実させたい。
	資格取得の充実	適切に補習を実施し、生徒により多くの資格を取得させる。	生徒の理解度に合った指導体制を維持した。補習の実施により、生徒の資格取得も一定の成果を挙げた。また、遅進者指導についても力を入れて取り組んだ。今後も生徒には一つでも多くの資格を取得させ、自信をつけさせたい。
	キャリア教育の充実	インターンシップ先の確保と生徒への働きかけを行い、インターンシップの参加により生徒に適切な勤労観や職業観を身に付けさせる。	例年より多くの生徒がインターンシップを希望した。様々な職種を紹介し、多くの経験を得ることで、自らの勤労観や職業観を身に付けさせたい。
第1学年	基本的な生活習慣の確立	校則の遵守、時間厳守、正しい身だしなみ、学習環境の整備等について意識させ、正しい生活を送らせる。	S T、個人面談、清掃、集会等、あらゆる機会を利用して、生徒に働きかけた結果、身だしなみは概ね良好であると感じられる。また、携帯電話の利用マナーについては、ルールを守ることができていない生徒がまだ多くいると思われる。粘り強く意識の向上を図る指導を継続する必要がある。
	基礎学力の育成	毎日の授業、家庭での学習が大切であることを理解させ、単なる作業では終わらない学習活動に主体的に取り組む姿勢を身に付ける。	進路ガイダンスや合同L T等において、家庭学習の重要性や高等学校における学習方法を指導すると共に、長期休業中の課題については全員提出させきる指導を徹底した。一方、主体的に学習する姿勢に欠ける生徒も多く、高校生としての学習態度をより多くの生徒に身に付けさせる指導が今後必要と感じられる。

担当	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
第1学年	進路目標の設定	的確な進路情報を提供し、自らの進路目標を設定できるように指導する。	総合的な学習の時間やLT、個人面談を通じて自己の将来について考えさせ、卒業後の進路に興味を持たせる指導を行った結果、自らの進路を考え、適切な類型選択ができたと考えている。ただ、具体的な進路目標まで定まっていな生徒も多くおり、長い目で指導を継続していく必要がある。
第2学年	基本的生活習慣の確立	時間厳守、正しい身だしなみ、環境整備、部活動、挨拶の励行等、充実した高校生活を送らせる。	STや学年集会等の機会を利用して生徒に働きかけを行うと共に、服装やマナー面など問題を感じる生徒に対しては個々に声かけをしていった。その結果、遅刻数や携帯電話の利用マナーなど、昨年度より改善できたと考えている。その他、具体的方策に掲げた点についても、概ね良好であると思われる。来年度もこの状況を維持したい。
	基本的生活習慣の確立	面談などを通して適切な就寝・起床時間を意識させると共に、時間厳守、正しい身だしなみ、学習環境の整備、部活動、挨拶の励行等に留意させ、充実した高校生活を送らせる。	生活習慣の確立を目指し各HR担任ごとに個人面接をこまめに実施した。家庭での様子を含め学校生活等の話を聞いた。生活習慣については概ね良好と感じられる。挨拶についてはあまりできていない生徒も多いと感じられる。来年度は、社会に出る直前であるということを明確に意識させ、社会で通用する人間の育成を期したい。
	基礎学力の充実	授業や家庭学習を充実させ、単なる作業では終わらない、自ら学ぶ姿勢、考える姿勢を身に付けさせる。	各教科ごとに、小テストを実施して基礎学力の向上を図った。また、授業改善を通して、作業だけでは終わらない、自ら考える学習への意識付けを行った。その結果、成果を上げた生徒も出てきたと考えられる。ただ、上下間の格差がはっきり出てきた。下位層の進路及び学習に対する意識改革が必要であると思われる。
第3学年	基本的生活習慣の確立、定着	時間厳守、正しい身だしなみ、清掃への積極的参加を促し、校則を遵守させる。	身だしなみについては、頭髪は概ね年間を通じて良好であった。男子の第一ボタン、女子のスカートについては根気強く声かけをし、概ね良好であった。学校生活全般を通じて、生徒に対して声を掛けていくことが大切である。
	学力の充実	授業や家庭学習に積極的に取り組ませ、自ら学ぶ姿勢を身に付けさせる。	各教科担当が工夫をし、授業や家庭学習に前向きに取り組ませることができた。特に受験の時期が迫ってきてからは、その姿勢は顕著であった。より早い時期からそういった姿勢をもたせられるような働きかけが必要である。
	具体的な進路目標の設定	個別面談・進路情報提供の充実を図る。	各担任が面談を年間を通じて継続的におこない、一人一人に適切な進路指導を行うことができた。また、LTや総学の時間を利用し、適切な時期に進路情報の提供を行うことができた。

